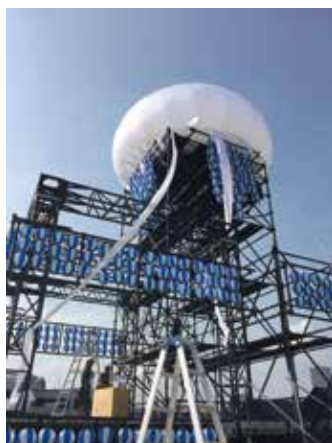


中之島 GATE にて「祭りだ!祭りだ!水都村 ビッグ盆 (本番日:8/14,15,21,22,23)」の野外イベントが開催されました。夏の野外というと、夏フェスのイメージが強いと思いますが、このイベントは大阪府や大阪市が主催となって行っている大阪を活性化させるための事業の一環です。通称『くらげ』という装飾と青い提灯等の装飾をしているやぐら(約13m)の足場・テント備品関係・照明電設関係・仮設トイレ等を請けており、様々な業種の方と一緒に施工をしました。

大阪の夏野外 だより



晴天に恵まれましたが、拓けた場所で日陰もなく直射日光の中での作業のため、熱中症にかかってもおかしくない現場でした。そのため、クライアントからはウォーターサーバーの提供がありまた各自で塩飴や梅干し、スポーツドリンク等を持参し、熱中症対策をしました。そのおかげで、重度の熱中症になる人も出ずに現場が終わりました。(大阪営業部 2 係)



涼しくなってもまだ危険!?

熱中症にご注意を!! 9月に入り、猛暑という日少なくなってきています。ですが、まだまだ熱中症になる可能性が十分にあります。熱中症には気温と湿度が大きく関係してきます。

気温が高く(25度以上)湿度が高い(60%以上)環境下で最も起こりやすい状況となります。また、室温や気温が低くても多湿で風通りの悪い状況でも熱中症が起こりやすい環境になります。特に、私たちが働いている空調の効いていないホールやドーム、製作工場、倉庫などの密閉された空間などはその環境になりやすい状況となります。ですので、湿度が高い時は特に注意が必要です。また、湿度が高い日は汗がなかなか乾きません。汗が乾きにくいと身体は十分に発散できず、熱は身体の中にもったままになると体温が高くなり、熱中症にかかりやすくなります。

今年もまさにサウナ状態!!の東大阪工場、倉庫での仕事をこなされられる大阪技術部資材管理課係長の柏木さんと大阪製作部1係主任の西川さんに『倉庫、工場での暑さ対策』を伺いました!



大阪技術部資材管理課係長 柏木さん

夏場はとくに大型のイベントや野外フェスなど積み下ろしのトラックが山盛り来るのでアルバイトさんにも来て頂いているのですが、とにかく水分補給の徹底、冷えた状態の飲み物を摂取できるように冷蔵庫は共同で使えるようにしています。炎天下の作業の場合は状況を見て大体1時間に1回は日陰で休憩をとれるように心掛けています。熱中症対策ではありませんが猛暑の中での作業は不快感から集中力が散漫になってしまう事もあるかと。私自身は汗でぬれた上着はこまめに着替え不快感を無くす事で暑い中での作業ストレスを減らし、作業に集中する事で、ヒヤリハットを未然に防ぐようにしています。

大阪製作部1係主任 西川さん

製作部である僕達の作業は刃物など怪我や事故に繋がる物を使用するので、少しでも自身に異常を感じたり、相手に見て取れたら、水分補給は勿論ですが他にも、外気に当たりに行く・空調の効いた所へクールダウンに行く、などで熱中症予防プラス工具による怪我や事故の予防に注意をはらっています。熱中症の話からはすこし外れますが高温多湿な環境下では汗をかいた肌に作業中に出る粉塵が付き、肌湿疹が出てしまうコも少なくないので暑い中ではありますが、極力肌の露出を少なくする・こまめに洗い流す・汗で濡れたら着替えるなど清潔を保つように心掛けています。